

# 次期あいち男女共同参画プラン（仮称）の基本方向について（答申）の概要

## 答申の趣旨

- 現プランの「あいち男女共同参画プラン 2020」（2016年3月策定）は計画期間を2020年度までとしていることから、今年度末までに、県は新たな男女共同参画プランを策定する必要がある。
- 男女共同参画審議会は、2020年5月に知事から、次期プランの基本方向について諮問を受け、部会を設置して、諮問事項について審議してきた。
- 諮問に対する答申案作成にあたっては、新型コロナウイルス感染症の拡大を始めとする社会情勢の変化を踏まえ、男女共同参画をめぐる現状と課題、国の「第5次基本計画策定に当たっての基本的な考え方」などを勘案したものとした。

## 愛知県を取り巻く社会状況

- 少子高齢化の進行及び単身者の増加などの世帯構成の変化
- 県内総人口に占める外国人県民の増加
- 南海トラフ地震や豪雨災害の増加など大規模自然災害、世界規模の感染症によるリスクの懸念
- 「SDGs 未来都市」への選定

## 男女共同参画の現状・課題

### ●男女共同参画に関する意識

- 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という固定的な性別役割分担について、2019年に“反対”と回答した人が“賛成”を上回り5割を超えたものの、全国に比べるといまだ低い状況となっている。
- 男女の地位の平等感について、“男性の方が優遇されている”と回答した人の割合が高いのは「社会通念・慣習・しきたりなど」「政治の場」、 “平等”と回答した割合が高いのは「学校教育の場」「地域活動の場」などとなっている。

### ●女性の活躍促進

- 審議会等委員、県職員の管理職、県教員の管理職、地方議会議員や、地域活動を始める様々な分野における女性の割合は、緩やかに増加傾向にある。
- 管理的職業従事者に占める女性の割合は、全国平均を下回り、全国34位となっている。
- 女性雇用者における非正規の割合が、全国平均に比べて高い。
- 夫婦共働き世帯の割合が全国平均に比べて高く、5割を超えているが、1日当たりの家事関連時間は妻が夫の7.5倍となっている。
- 子育て期（25～44歳）までの女性の労働力率が、全国平均を下回っている。
- 平均勤続年数は、男性2位・女性35位で、男女差は全国で最も大きく、賃金格差は全国45位となっている。
- 災害時の避難所における安全確保等、防災分野へ女性を始めとした多様な視点が必要とされている。

### ●安心して暮らせる社会

- 全国的に、母子世帯における雇用者のうち非正規雇用は5割を超えており、ほぼすべての年代で女性の貧困率は男性より高くなっている。
- 警察が扱うDV等の相談件数は増加傾向にあり、性犯罪・ストーカー相談件数も減少していない。
- 男女の身体的構造や生活習慣の違いを背景に男女間で異なる健康上の課題がある。

## 計画期間

2021年度～2025年度までの5年間（2030年度までの中長期を展望）

## 基本理念

- すべての人が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性にかかわらず、個性と能力を発揮することによる、多様性に富んだ活力ある男女共同参画社会の実現をめざす

## 重点目標

10年先を見据えた中長期的な3つの重点目標を掲げてプランを推進

### I あらゆる分野における女性の活躍の促進

政策・方針決定過程への女性の参画は、まだ十分に進んでいないとはいえず、多様な視点・価値観を取り入れ、暮らしやすい社会を実現するため、一層の推進が求められている。  
すべての人が社会のあらゆる分野で個性と能力を発揮し、活躍するためには、働き方の見直しや就業環境の整備などが重要である。

### II 男女共同参画社会に向けての意識改革

固定的な性別役割分担意識がいまだに根強く残っており、様々な分野への女性の参画や、男性の家事・育児参画などへの阻害要件となっていると考えられる。  
そのため、家庭、学校、地域が連携して、あらゆる世代が男女共同参画に関する理解を深め、それぞれの個性と能力を伸ばすことができるよう取り組んでいく必要がある。

### III 安心して暮らせる社会づくり

貧困、高齢、障害等、様々な困難を抱える人々や、性的少数者などが安心して暮らしていけるよう、個人の置かれた状況に応じてきめ細やかな支援が必要である。

計画の体系

